

<資 料>

平成26年度

「農作業事故の対面調査」
結果一覧表

I. 農機一般

1. トラクター

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
1	北海道	1	64	24	5	9	木	トラクタからロータリを外すときに、3点リンクヒッチを外してからユニバーサルジョイントを外そうとしたところ、ロータリがトラクタ方向にずれ動き、左手の指を挟んだ。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な手順を知る機会がなかった。いつもと逆向きにトラクタを脱着場所に止めてしまった。 ・指が挟まるようなコネクタの持ち方をしてしまった。 ・広角ジョイントが重いので両手で持たざるを得なかった。 ・脱着場所の地表は、トラクタ側に向かって2～3°の傾斜があったが、見た目にはわかりづらい状態だった。 ・地表の傾斜に気付かなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業機を脱着するときは、舗装した平坦な場所（機械庫前のコンクリートたたき）で行うようにしたとのこと。 ・作業機の正しい脱着手順をお示したところ、「これまでの40年以上、知る機会がなかった」、とのことであった。当たり前と思われる知識でも、改めて周知する必要があると思われる。 	隣の農家が別のトラクタでロータリを引っ張り、脱出後、病院へ救急搬送。レントゲン撮影等の結果、骨や筋には異常は見られなかった。	左手人差指～小指第1関節部の圧迫	通
2	長野県	1	54	16	4	9	?	トラクターのロータリ付け替え時、トラクター側のプロペラシャフトに右手薬指先端を挟み負傷	シャフトが重く、抜けたときにプロペラシャフトが下に曲がり、その間に中指が挟まった。	その後改善して、支える金属棒でシャフトを吊した。	冷やして我慢した。	右手中指損傷	なし
3	北海道	1	82	24	11	11	水	小雨が降る中、乗用トラクタにトレーラをけん引し、剪定枝（冬の燃料）を積んで丘の上からの農道を下ってきた。左側の谷に用心するため、農道を右寄りに進路をとったところ、トレーラに後ろから押されたようになり、トラクタがスリップして右側の土手に乗り上げ、運転者はスリップしたときはデフロック操作が必要と判断し、余計にトラクタが土手を上ってしまい左側に転倒した。	<ul style="list-style-type: none"> ・スリップした時、ブレーキではなく、デフロックペダルを踏む判断をした。 ・高齢者であった。 ・安全フレームなしのトラクタを運用していた。 ・トレーラにブレーキが装着されていないかった。 	時間の関係上、聞き取ることができなかった。	骨折の診断を受け入院、退院後、調子が悪く、再度受診、肺に水が溜まっているのが見つかる。内視鏡手術月一回を三回受けたが、肺組織の一部が壊死しており、肺の1/3切除。	肺圧迫 肋骨3本骨折 鎖骨骨折	入

1. トラクター

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
4	福島県	1	85	26	6	1 5	土	トラクターで畑の耕耘終了後、T字通路に出るため、左旋回で通路に出たが、ハンドル操作が遅れたのか、右側の約3mの法面の下の畑に転落、下敷き。	最後の耕耘を終えて、圃場を出る際に、一旦停止などをして、左旋回を余裕を持って行う操作がされていなかったようだ。また、夕方近くになっていたと思われるが、前照灯は点けられていなかった。	高齢者の視認能力は、若年者に比較し、視野などが狭く、また立体識別能力の低下が著しく、夕方の作業は避けるべき。	帰りが遅く、家族が探して、発見されたのは、午後8時40分頃。レスキュー隊員が40分かかって救出したが2日後に死亡。	全身圧迫、死亡	死亡
5	福島県	1	70	26	4	1 8 : 5 0	木	日没30分後、トラクターに装着したブロードキャスターで肥料散布後、国道を走行。後続の84歳男性の運転する乗用車に追突され、左道路脇に押し出され、側溝で転倒。本人投げ出され、全身強く打ち付けられ、死亡。	日没後であり、かつ後部の小さい反射板は、おそらくブロードキャスターの陰に隠れて、後方からは見えなかったと思われる。	輝度の高い反射板の設置のみならず、トラクターに回旋灯の設置の法改正が必要。	直ぐに病院に搬送されたが、全身強く打っており、まもなく死亡	全身強打、死亡	死亡
6	長野県	1	52	16	4	9	?	トラクターで肥料まき中、畑の隅までまこうとしてトラクターが4m下に落ちた。自分は左側に飛び降りたので怪我はなかった。	トラクターに肥料600kgを乗せ曲がろうしたため、慣性で右側の土手を越え転落した。	重い肥料を乗せたときは、ハンドルを切るときスピードを抑える必要がある。	飛び降りて難を逃れた。	なし	なし
7	新潟県	1	87	26	4	1 1 : 3 0	水	トラクターで耕耘作業を行った後、市道に出て走行中、道路の左側に転落し、トラクターの下敷きとなり胸を強く打ち死亡した。トラクターは4厘駆動の13馬力、110cmのロータリーが接続されていた。	今年初めての運転で、まだ運転感覚が戻っていなかった。後ろから車が来て、焦って操作したと思われる。ブレーキは連結されておらず、片ブレーキになった。	高齢者はトラクターを運転しない。安全フレームとシートベルトが設置されておれば死亡事故にはならなかったと思われる。	耕耘した畑に妻がおり、トラクターが急旋回して前輪から転落するのを目撃し、近所の住民に119番通報を依頼。救急車と工作車で救出され、病院へ搬送されたが胸部圧迫で死亡した。	圧迫死	死亡
8	福島県	1	71	26	6	9 : 4 0	水	フロントローダー付きトラクターでカボチャ畑の畝間の中耕除草中、畝の端で右旋回中、曲がりきれず左法面から、トラクターもろとも約80cm下に転落。下敷き。	畝の端の旋回部分の枕地の幅が狭く、カボチャのマルチを踏む可能性があり、畦際に寄りすぎたらしい。また、フロントローダーをつけており、重心が前のめりとなり、旋回時に転倒しやすい状態であった。	枕地の面積がもつたいないと、つい狭くするが、耕耘機時代よりはるかに余裕のある枕地を確保する事が重要。	事故発生直後、近隣の住民が異変に気づき、ドクターカーがすぐ手配されたが、棟など強打しており、5時間余りで死亡。	胸部等、全身圧迫	死亡

1. トラクター

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入院
9	長野県	1	63	26	2	1 1	月	農道をトラクターで除雪していたとき、障害物に気づきトラクターを降りようとして足を滑らせ仰向けに倒れ、地面に右肩を強打した。	トラクターを降りるとき、雪で長靴が滑り、ステップから転落	靴の底についた雪を払っておけば良かった。	午前中の事故であったが、夕方に痛みが増したので、自車で整骨院を受診。	右肩打撲	通
10	秋田県	1	48	15	5	1 1	一	79馬力のファーガソン製トラクターで代掻きを終え、右側から降りようとしたときレバーにズボンが引っかかってタイヤが回転を始めた。慌てて横に飛び降りたが危うく下敷きになるところだった。	トラクターの運転席が狭く、右側から前向きに降りた。	運転席の左側から後ろ向きに降りる習慣をつける。レバーが引っかからないように短くする。	怪我はなかった。	なし	なし
11	長野県	1	74	26	7	1 5	金	畑でトラクター耕運作業中。運転しながら左後方の耕耘状況を確認しようとして、左後ろに振り向いたとき、レバーに胸部があたり肋骨骨折した。	畑の境が気になっており、急に振り向いたために、左脇腹を強く打ってしまった。	レバーの素材を柔らかく改善できないか。	大したことはないと思いますが、4日間がまんした。その後受診し、骨折が分かり、コルセットを処方された。	左第3肋骨骨折	通
12	福岡県	1	36	22	7	1 0	日	大豆の播種中、畦際で方向転換し再スタートしようとして、ウィーリー状態で、3～4m進んだ。ギヤが主変速、副変速ともいつの間にかトップに入っていた。	疲れと暑さもあり、注意力を欠き、トラクターで方向転換したとき、ギヤをトップに入れてしまった。	体を休め、体調を整え、適正なギヤ操作を心がける必要がある。	とくになし	なし	なし
13	北海道	2	70	24	9	1 0	土	トラクタのフロントローダーでフレコンバックの吊り縄を引っ掛けようとした際、バランスを崩したためトラクタの作業者が慌ててフロントローダーを持ち上げたところ、吊りベルトを持っていた被害者の左手の中指が、フォークとの間に挟まれた。	<ul style="list-style-type: none"> ・とっさに吊り縄を掴んでしまった。 ・安全な作業手順や動作の合図の取り決めが検討されていなかった。 ・荷崩れが生じない平坦な場所で作業する等の配慮が足りなかった。 	フレコンバックが荷崩れしないよう、荷下ろし作業は平坦な場所で行うよう徹底している。	家族に車で病院に連れていってもらった。寒くなると患部が痛み日常生活に時折不自由を感じる。	左中指第1関節裂傷	通

1. トラクター

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入院
14	兵庫県	1	65	25	8	19: :	水	夏の暑い日の夕方、転作圃場を耕耘後、自宅倉庫でトラクターの尾輪を外し、床に無造作に放置。その後、レタス用畦成形のための培土器を装着するため、運転席と作業機の間を行き来して、尾輪に躓き、ローラー左側のチェーンケースに向かって倒れ、右前頭部を強打。	暑い中、体力・集中力とも衰えていた。また、暗くなっていたにもかかわらず、明かりを点けず作業をしていた。作業着も半ズボン・半袖・スリッパのラフなスタイルで、臨んでおり、作業に向き合う姿勢ではなかった。	照明が不十分、かつ「サッサと」済ませようと、十分な作業スタイル・姿勢ではなかった。また、疲労も蓄積しており体調管理が重要。事故後、整理整頓を心がけるようにしている。	自車で25分の医療機関を診察、検査の結果、打撲のみ、湿布薬が処方された。	右前頭部打撲	通

2-1. 草刈機・刈払機

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入院
15	秋田県	1	24	15	6	6: 3 0	木	傾斜45°弱の水田畦畔法面を背負式刈払機で草刈作業中、バランスを崩し、仰向けに転んで右側の水路に頭から転落した。空中で刈払機の刃（チップソー）が左足の左側面にあたり、長靴が裂け、10cm以上の切創を負った。	法面とコンクリート水路枠の境目が崩れていて、小さな砂利がコンクリート枠（幅10cm）の上に被さっている状態で草も有り、水平な足場が確保されず、見えにくい状態であったと考えられる。	事故のあった法面の半分は刈払機で刈り、残り半分は除草剤を使っているが、薬を使った部分は崩れやすい。試しにカバープランツを使ったが、ネズミに根を食害されて、枯れてしまった。	父の運転で（約15分）病院に連れて行ってもらい、すぐに治療してもらえた。切れていた腱を骨に固定して縫合（16~17針）しギプス固定（約1ヶ月）。3ヶ月のリハビリで完治した。	左足外側部の挫滅創、腱切断。	入
16	新潟県	1	66	26	9	1 6	火	稲刈り前に畦の草刈作業を行っていた。畦の法面を刈っていた時、傾斜面で踏んばっていた左足が滑り、草刈機の刃に当たってしまった。	畦の法面の長さが130cmと長く、一番下まで刈っていたので左足に重心がかかり、滑りを留めることができなかった。畦が濡れて滑りやすい状況にあった。	滑り止めのスパイクと鉄板の着いた長靴の着用。	長靴を脱ぐと血が流れ出したため、持っていたタオルを破り、足を縛って止血し、軽トラックで自宅に帰った。その後、医院に行つて治療を受けた。	左足親指切創	通
17	兵庫県	2	43	26	5	1 1 : 3 0	金	草丈50~60cmの草を方怪か式の刈払機で刈っていた。区画の横の側溝付近を刈っていて、雑草に気を取られていて、側溝の落とし水戸に気づかず、右足を落とし、そのまま右側に転倒。右足に激しい痛みを覚える。	草は50~60cm、かつ側溝側に多い被さるように倒れていて、側溝の構造がよく見えなかった。	草刈りは、草むらになつている所を刈るので、必ず、事前の検分と、危険箇所は事前に鎌などで刈り取っておくことが必要。	午後の診療時間に合わせて病院へ。骨には異常が無かったが、捻挫。その後約1ヵ月固定。	右足首捻挫	通

2-1. 草刈機・刈払機

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入院
18	福岡県	1	72	26	5	11	土	背負い式刈り払い機で水田畦畔の草刈りが終了したので、地面に置いたとき、最低速で回転していた刃が地面に当たり、反動で手前に戻って来て左足を切った。	背負い式刈り払い機の刃が回転したまま畦畔に当たり反動で切った。	スローの状態では刃が回転しないようにスロットルを落としてもエンジンが止まらない構造改善が必要。	長靴も切れ血が出たが大したことはない和我慢。翌日受診。とくに縫うこともなかった。	左足中指切創	通
19	北海道	1	33	25	8	16	土	背負式刈払機で畦畔の草刈り作業中、刈刃のチップが喉に刺さったが気付かず、7カ月後に摘出手術を受けた。	<ul style="list-style-type: none"> ・飛散物、草詰まりを生じない刈り方を知る機会がなかった。 ・顔面をカバーする防護具を装着していなかった。 ・飛散物防護カバーを外していた。 ・現場には、石等は見当たらなかった。コンクリート製の配水管が2箇所あり、擦れたような跡が付いていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく肌が露出しない服装で作業するよう心がけるようにしたとのこと。 ・異物がほとんどない場所でも、実際に飛散物による事故が発生したことから、作業時のフェイスガードの着用と、飛散物防護カバーの再装着を勧めた。 ・刈払機は手軽な機械で、誰でも容易に扱える反面、正しい作業方法は知られていないため、改めて周知する必要があると思われる。 	自宅で消毒して絆創膏を貼っておいたところ、数日で傷口は塞がったが、傷跡に膨らみが残り、痛がゆくなるようになったため、3カ月後に病院で診察を受けた結果、金属片が入っていることがわかった。さらにその4カ月後に摘出手術を受けた。	喉の刺傷	通
20	新潟県	1	56	26	10	11	月	市道の草刈を始めて直ぐに草刈機の刃に草が引っかかってしまった。草刈機のエンジンをかけたままエンジン部分を下にして立て、右手でパイプを持ち左手で刃についた草を引っ張ったところ、草刈機が左にねじれ、刃が左手の中指と人差し指に当たり、切ってしまった。	草刈機に草が絡まった時は、いつもエンジンをかけたまま草をとっていた。事故時も同様のやり方だったが、いつもと違うのはアクセルを戻さないで草をとろうとした。	草刈機の刃に草が詰まったときはエンジンを止めて草を取り除く。	手袋が破れ、直ぐに出血した。トラックで自宅に帰り水で洗浄し、傷絆創膏で止血した。傷はそれほど深くないと思われたので医者には行かなかった。切った関節部が曲げにくくなった。	左手中指、人差し指の切創	なし

2-2. 草刈機・自走式草刈機

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入院
21	新潟県	1	67	26	5	14	火	自走式草刈機で畦の草刈作業をしていた。農道から畦畔に向かって草刈を始めようとしたが、60cm真四角のコンクリートの用水マスを乗り越えたときに、自走式草刈機が右に傾き転倒しそうになった。転倒を避けようと右腕を強く持ち上げたとき、肩が「ギク！」と音がした。ひじは曲がるが肩が上がらなくなり、仕事を続けることができなくなった。	用水マスは60cmの真四角で上に鉄板が乗っている。鉄板と畦との間には12cmの段差があり、鉄板を超えたときに段差で自走式草刈機がバランスを崩して右に横転しそうになった。	用水マスは段差があるのでゆっくりと進むこととした。	肩が「ギク！」と音がしたことと痛みが強かったため、トラックで事務所に帰り、着替えをして労災病院で治療を受けた。	右肩腱板損傷	通
22	兵庫県	1	68	26	6	18:30	月	自走式草刈機で畦草を刈っていて、角隅で刃の駆動を切って方向転換を終えた時、自分の足下に草があり、駆動を入れバックで刈ろうとして、そのまま5m下の畦畔隣接の排水溝に草刈機もろとも転落	回転刃の駆動スイッチを入れて、後退しながら草を刈ろうとした。	自走式草刈機は、方向転換やバックする場合は、十分な余裕がある場所でないと思つた以上に重心が不安定で、幅が広く、期待の長さも長く、重心が不安定である。余裕を持った場所での方向転換・バックなどが必要。	事故後約1時間後、妻の運転で病院受診。腰椎骨折で38日間入院	第1腰椎骨折	入
23	北海道	1	60	25	6	8	日	自走式草刈機で畦畔の除草作業中、刈り残し部分を刈ろうとして機械をバックさせたところ、雨に濡れた畦畔で足を滑らせ、左足が刈刃に接触した。	<ul style="list-style-type: none"> ・足場が狭いところでバックしながら刈ってしまった。 ・安全靴を履いていたため、大惨事を免れた。 ・刈刃カバーの後端から刈刃先端までの距離が短く、入り込んだ爪先が接触してしまう構造だった。 ・天端の幅が約50cmと足場が狭く、隣の水田と約40cmの高低差があった。 ・雨が降っており、草に覆われた畦畔は滑りやすい状態だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈り作業には応援を頼み、ゆとりを持つようにした。 ・刈払機の燃料タンクには、燃料を半分しか入れず、こまめに休憩するようにした。 ・自走式草刈機は、直進時は操作が容易だが、方向転換するのに一定のスペースを必要とし、畦畔の角などのように狭い場所では取扱いが難しいため、刈り残しは刈払機で対応するなどの対応が望ましい。 	レントゲン撮影の結果、骨には異常はなかった。	左足爪先の打撲	通

2-2. 草刈機・自走式草刈機

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入院
24	沖縄 県	1	73	25	11	1 4	水	牧草地の刈り取りをお願いした畑にトラクターが入りやすいようにと、自走式モアで草刈り中、モアが溝に落ち、引き上げようとバックした時転倒し、右足がモアに巻き込まれ、右脚切断。	草丈が高く、道との境が分からず、くぼみにはまり、足が滑って自走式モアの外刃に足が巻き込まれた。	窪みを解消しておくなど環境整備が必要だった。バックするときにはモアの回転が止まる構造的な改善が必要。	仲間が近くの診療所に連れて行ってくれたが、手に負えないということで病院へ搬送。さらにドクターヘリで本島に搬送。事故から3時間後に手術。その場で足の切断を決断。76日間入院。	右下腿多発開放骨折、右前脛骨動脈損傷	入
25	新潟 県	1	43	26	8	1 1	金	自走式草刈機(4輪駆動のスパイダーモア)で農道の草刈作業を行っていた。事故にあった農道は用水路側で、用水路から1.5mほど入った所で傾斜18.7度の勾配があった。自走式草刈機の刈取りカバーと地面は6~6.5cmの隙間があり、この隙間から小石が飛んできて、左足に当たった。	傾斜地では自走式草刈機を横歩きで使用するが、傾斜がそれほどきつくなかったので、歩きやすい前進で使用していたので石が体の方向に飛んできた。	傾斜地では自走式草刈機を横歩きで使用する。	事故発生後、しばらく草刈作業を続けていたが、痛みが強くなり腫れてきたので近くの医院で治療を受けた。	左膝靭帯打撲	通
26	新潟 県	1	56	26	6	1 1	金	水田側の斜面をウインドモアの刈り刃を下ろして刈り、帰りにウイングモアの刃を平らにして刈っていたところ、畦にあった小石が運転席側に飛んできて右足に当たった。	今まで石が飛んできたことがなかったので、特に石があると危ないとの注意をしていなかった。刈取り速度は高速、刈り取りの高さは下から2段目にしていました。	安全靴とすね当てを購入して着用するようにした。すね当ては軽くて作業に支障がないが、夏は暑くて足がむれて、我慢しながらの草刈作業となった。	翌日になって腫れと痛みが引かず医者に行き診察を受けたところ、右足親指の骨折と診断され、ギブスで足の指を固定した。	右足親指骨折	通

3. コンバイン（バインダー含む）

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
27	北海道	1	65	25	9	13	月	コンバインで手こぎ作業中、イネが中々脱穀部に入っていかなかったの で、コンバインに右肩をくっつけるよ うな体勢でイネをコンバイン後方側か ら引っ張ったところ、急にイネが食い 込み、軍手をして左手が食い込んだ イネと一緒に脱穀部に巻き込まれた。	・軍手をして手こぎ作業 をしていた。 ・結びワラを掴んでいた。 ・緊急停止ボタンが付いていない古い機械だった。	枕地刈りしたイネをワ ラで結んでおいたこと が妥当だったか、今に して思えば疑問であ る、とのことだった。	共同作業者の運転で近く の病院へ行き、止血処理 をする。救急車で大きな 病院へ転院。障害者3級 の認定を受けている。	左手首 粉碎骨 折、親 指～薬 指全指 切断	入
28	秋田県	1	75	24	9	10:00	土	自宅から1km程の自家水田で3条刈り 自脱コンバインにて稲刈り作業中、水 田の長手方向に刈りはじめて短辺方向 にターンしようとしてバックしたところ、 コンバインがゆっくり水路側に落ちて 行った。脱穀部側に上り水路の対岸方 向に飛び跳ねた。一旦、対岸の水路壁 を左足で蹴ってから、右足で水路底の コンクリートに着地、上流側に移動し ているところにコンバインが落下して きて、籾タンク側を下に水路に横倒し になった。排出オーガーに頭頂が当た る状態で一旦気を失うが、その後意識 が戻り、コンバイン前部へ移動、水路 を背にして足を延ばして座ってい	後退速度が速く、後方 確認が不十分だった。 前年まで畑だったのを耕 起して作った水田で、畦 畔は自らスコップで作っ た。天端幅25～30cm、高 さは15～20cmで低く、ゆ るくて水も漏るような状 態だったため、畦畔に乗り 上げてコンバイン前 部が下がらず乗り上げた 感覚がなかった。	水路側の畦畔の天端 を少し長くして、安全 に配慮している。田植 機などで水田への侵入、 退出時は気をつけて いる	水田近くの家の友人が 駆けつけ、連絡を受けた 奥さんが119番通報し た。両手をつかまれて水 路から引き上げられ、救 急車で病院へ運ばれ、手 術後5ヶ月間入院、現在 も通院中で後遺症があ る。硬い路面の長時間歩 行では500m位歩くと痛み で動けなくなる。	右足脛 骨遠位 端骨折、 右足底 骨群の 骨折、 こめか みの切 創	入院
29	福島県	1	54	26	10	16:50	土	真四角の圃場であったが、地震で一角 が崩れ、その部分を三角形の形で新た に畦を作った。コンバインで稲収穫時、隅 刈りのためバックした際に、畦に乗り上 げ、横転、両足がコンバインの下敷き になった。	枕地刈りを、十分に行わ ず、狭い範囲で、バック し前進しようとした。	枕地刈りを、十分余裕 を持って前進して行 き、後方に余裕を持た せ、無理な後方バック を行わない。	最初、妻に連絡してジャ ッキを持ってきてもらい、 持ち上げようとしたが、 不可。レスキュー隊とドク ターカーにて、エジャ ッキにて40分 後に救出。2カ月後の現 時点でも脚にしびれ感残 る。	左脚腓 骨骨折・筋 肉挫 傷、右 足親指 圧迫	入

3. コンバイン（バインダー含む）

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入院
30	新潟県	1	66	24	9	11	日	コンバインでコンクリート舗装の坂道（道幅2.2～2.5m、傾斜13～18.7度）を低速で上っていると、クローラがスリップし、バックで9mほど滑り下りてしまった。また上り始めると同じ場所でスリップして、滑り下りてしまうことを3回繰り返した。コンバインは、やや傾斜が緩やかとなった幅1mほどのミョウガが植わっている路肩（土）に、クローラが引っかかって止まっていた。	農道は急勾配であった。水田は水はけが悪いところがあり、そこでクローラに軟らかい泥がついたため、農道でスリップを繰り返した。	コンクリート舗装の農道では、クローラに泥がついたまま上ると泥がコンクリートに挟まってスリップしてしまうことがわかったの で、クローラに泥がつかないようにすることにした。	ヒヤリ・ハット体験であり怪我はなし。家からバケツとブラシを持ってきて、泥を落としてなんとか上ることができた。路肩の下は5mほどの崖があり、ここでコンバインが止まらなければ大惨事になるところであった。	ヒヤリ・ハット体験	なし
31	新潟県	1	69	26	9	14	日	自脱型コンバインで自宅の格納庫から70～80m先の水田に自走した。進入路から2.5m行き過ぎてしまったため、バックしたところ、進入路手前の路肩から1.3～1.6m下の段差に転落、被害者は仰向けになったコンバインの下敷きになった。	農道や進入路は草丈0.3～0.9mの草が覆い茂っており進入路の位置がわかりづらい状態であったため、行き過ぎてしまった。	進入路や路肩はしっかり視認できるように、草刈を励行する。慣れた場所でも移動の際は周囲をしっかりと確認する。	被害者が1人暮らしのため、発見が遅れた。知人が翌朝の7時半頃発見し、救急車を呼んだ。	圧迫死	死亡
32	福岡県	1	37	25	7	17	?	5条のコンバインの胴の中を掃除していて、コンバインの付属の踏み台から足を踏み外して、落下。その際、刈り上げチェーンを押さえているテンションに左肺部をひっかけて、肋骨骨折。	踏み台を踏み外して落ちるときにテンションの棒に左脇腹が当たり、強く打撲した。	突き出ているテンションの棒の高さがもう少し（2cm）低くてもいい。転落防止用に危険箇所には黄色の目印を付けている。	しばらく動けなかった。自車で病院を受診。骨折と診断。コルセットを1ヶ月着用。	左肋骨骨折	通
33	福岡県	1	63	23	10	8	月	2条刈りのコンバインのチェーンに給油するため、こぎ胴を開け、回転しながら藁搬送チェーンに右手で給油中、左手がこぎ胴に巻き込まれ左手、第2、3、4指が巻き込まれた。	こぎ胴が回転しているのを忘れ、左手甲と指を叩かれた。	自動的に注油する方法もある。注油器の改善も必要。また左手の置き場所に注意が必要であった。	奥さんに救急車を呼んでもらった。転院し手術。40日間入院。	左手第2、3、4指、骨折及び挫滅創	入
34	長野県	1	77	25	9	10	金	稲刈り機・1条刈りバインダーの結束部分を点検中、ヒモが通過したと思ったら、その瞬間にヒモを切るカッターが左手示指の第1関節部分に食い込んだ。5日間入院	エンジンを止めずに点検し、指を挟んだ。	エンジンを止めておこなう。	一旦家に帰り、奥さんに促されて受診。曲がった指は治らない。	左示指中節骨解放骨折	入

4. 耕耘機

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入院
35	長野県	1	67	26	4	1 5	月	いつもは二人ですのだが、この日に限り一人で管理機を軽ワゴン車に乗せようとして、腰に負担がかかり腰部を捻挫した。	30.5kgある管理機を一人で持ち上げ、軽ワゴン車に乗せようとした。	二人で運ぶ、さんばしを利用して車に乗せるなどの工夫が必要。	その日は我慢し、翌日受診。骨折はなし。湿布薬を処方。	腰部捻挫	通
36	長野県	1	62	26	6	1 1	火	アスパラ畑で耕耘機で除草作業中、硬い土に逆回転耕運用ロータリーがキックバックを起こし、耕耘機に押されてしりもちをついた。	硬い土のところで管理機がキックバックを起こした。	ロータリーの刃が逆回転だけでなく順回転のものとの組み合わせが望ましい。	痛み止めを飲んでしばらく様子を見た。3日後に受診。腰椎骨折が判明。	第1腰椎圧迫骨折	通
37	長野県	1	74	25	11	1 1	木	自宅から1kmにある畑で管理機を使い耕耘を終了し、片付けようとして左にハンドルを切ったところ、硬い土にキックバックし、ロータリーのカバーで足を切った。6ヶ月入院	硬い土で管理機がキックバックし、ロータリーカバーの縁で受傷した。	金属の縁を丸みのある、ぶつかっても怪我のないように改善できないか。	近くで作業していた人が救急車を呼んでくれた。	左足複雑骨折、腰椎圧迫骨折	入
38	長野県	1	72	26	6	1 6	土	自宅横の畑を3.5馬力の管理機で耕耘しようとして、キックバックを起こし、後ろにあった脚立と斜めになった管理機に挟まれ、燃料タンクの角で左下肢の膝下を縦に5cmほど裂傷した。入院7日間。	硬い土に高速で入った管理機がキックバックした。	低速で入る必要があった。また、金属の縁取りをぶつかっても怪我をしないように丸くする。	夜になって足が腫れてきたので受診。翌日切開し入院。血液抗凝固薬をのんでいた。	左下肢裂傷	入
39	長野県	2	73	25	10	1 3	木	自宅倉庫で管理機のロータリーに絡まった水糸を鎌で取ろうと思い、ロータリーの上カバーに手をかけ、持ち上げようとしたとき、腰を痛めた。	管理機をロータリー側から持ち上げようとした。	ハンドルを下げれば、容易にロータリー部分を持ち上げることができた。	受傷後、6日後に自車で病院にいき受診。ギブス処方。	第15腰椎圧迫骨折	通

5. 田植機

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入院
40	北海道	1	56	25	5	9	木	田植機に肥料を補給するため、20kgの肥料袋を抱えて田植機前部に乗ったところ、足を滑らせて転倒し、田植機に腰と背中を強打した	<ul style="list-style-type: none"> ・水田靴を履いていた。 ・不自然な姿勢で作業してしまった。 ・焦っていた。 ・金属製ステップの端部の断面形状が丸く整形されており、滑りやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりを持って田植え作業するため、翌年から親戚に手伝いを頼んで、必要人員を確保した。 ・肥料の補給など、田植機に乗る際は、足元の安定を確認しながら作業することとした。 	翌々日になって、妻の運転で近くの整形外科に行き、大きな病院でMRIを撮ってもらったところ、脊椎圧迫骨折が判明。	脊椎圧迫骨折、背中 の打撲	通
41	長野県	1	81	26	5	15	日	軽トラックに苗箱を乗せ、その後ろに2条植えの田植機を乗せ、その両側に1本ずつ鉄製のさんばしを乗せたところ、弾みでさんばしが倒れ、軽トラックのあおりとの間に左手薬指を挟み受傷した。	鉄製のさんばしは15.4kgであり、その重さのために軽トラックのあおりと栈橋の間に指を挟んだ。	約5kgのアルミ製のさんばしも普及している。更新したい。	日曜日だったので、電話で確認後受診。	左薬指 末節骨 骨折	通
42	長野県	1	80	26	5	14	月	軽トラックに乗せた乗用田植機を降ろそうと、軽トラックの横にいて、左手を伸ばして操作したとき、ぎくっと左肩を捻った。	軽トラックに乗った田植機のレバーの握りが高く、下から操作したため左肩に無理がかかった。	下に、本人が乗るための高さ調節の箱などを用意すれば良かった。	その日は治ると思い我慢したが、痛くなったので翌日自車で休診した。	左肩腱 板損傷	通

6. 軽トラック、トラック

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入院
43	新潟県	1	60	26	9	14	火	コンバインで稲刈りをして、水田の乗入口に止めた軽トラックのコンテナに糶を入れた。軽トラックのアオリに乗って糶をならし、下に降りて軽トラックに乗ろうとした時、軽トラックが自然にバックして下の水田に転落した。運転者は、軽トラックに乗る前だったので怪我はなかった。運転席側の窓ガラスとフロントガラスが割れ、コンテナから糶の一部が水田にこぼれた。	軽トラックはサイドブレーキをかけていたが、乗入口の傾斜は11度あった。運転席側の前輪が浮き上がり、さらにコンテナと糶の重みで後輪側に重心がかかり、後輪側に転落したものと考えられる。	コンバインからトラックに糶を移すときは、トラックを農道に駐車して行う	物損事故であり怪我はなし。軽トラックは、知り合いの土建業者に連絡をとり、バックホーで吊りながらエンジンをかけて、前進で脱出した。	物損事故	なし
44	長野県	2	71	26	7	16	日	農畑から帰ろうとして、ご主人の運転する軽トラックの助手席に乗ろうとしたが、傾斜があり、十分には乗り切れず、発進したために、尻餅をつくように転落した。	傾いた場所で、軽トラックの助手席に乗ろうとした。	平らなところに駐車することが大切。二人のコミュニケーションが必要。	日曜日に受診。祝日を挟んで翌々に再受診。骨折していたために15日間入院	第10胸骨圧迫骨折	入
45	岩手県	1	65	26	3	14:30	火	自宅から約20km離れた雇用者の敷地内にあるロールベールを、2t車に3個積み、塩ビ製のロープをかけて止めようとしていた。ロープを思いっきり引いたところ、ロープが結び目で切れて背後に転倒した。そのまま後頭部を地面に打ちつけ、少し気絶してた。1人作業で周囲には人はおらず、気付いた後、何ともないようだったので、ロープをかけて、自宅までトラックを運転して帰ってきた	ロープは3~4ヶ月間、毎日のように用いていた。いつも同じ所を結ぶので、弱くなっていたと思われる（確認はしなかった）。以前使っていたロープは5~6ヶ月間用いていた。	ロープを新しくし、ロープを締めるときは気をつけている。	事故から6日後、頭痛があり、自分で車を運転して脳神経外科医院に行き、MRIを受けたが、異常なしと言われた。3ヶ月目頃から右手のしびれと歩行時右側に寄ることを自覚し、再受診したところ、硬膜下血腫が判明、同日県立病院へ行き、すぐに血腫をドレナージ、翌日から症状が解消した。	慢性硬膜下血腫	入院

7. 運搬車・バイク

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入院
46	新潟県	1	84	26	5	0 : 0 0	火	水稲に肥料を散布するため、肥料を運搬車に乗せエンジンをかけ、ブレーキと間違えてアクセルを踏んでしまい、運搬車が急発進してハサ木の間を通りぬけ崖から転落した。運搬車は崖を滑るように10m下まで転落し、途中で横たわっていたケヤキと立ち木に引っかかって止まった。事故者は運搬車前面のガラスを割って飛出て、農道から31.5m下まで転げ落ちた。	運搬車はダンプ式で荷台を上げてあった。運転席に乗り、上げてあった荷台を下げ、ブレーキを踏もうとしてアクセルを踏んでしまった。このときハンドルから手を離していたため、ハンドル操作をすることができなくなった。	運搬機に乗るのをやめた。	足が膨れ、体が動かなかった。近くで草刈をしていた人が事故現場に近づいてきたので、大声を出したところ気づいてくれ、救急車を手配してくれた。病院で脊髄が割れていることが判明。足の骨折はなし。脊髄の手術は2日後に行われた。退院後、膝が痛み、右手が自由に動かない。	脊髄損傷	入
47	新潟県	2	77	26	5	0 : 0 0	月	水田への水の入り具合を確認しにバイク(スーパーカブ50)で農道を走っていた。農道は舗装されているが、トラクターが落とした泥がところどころにあり、乾いて硬くなった30cm大の大きな泥に気づかず、乗り上げて転倒、バイクの下に足が挟まれた。	泥は1ヶ所に落ちていたわけではなく、農道に点々と落ちており、その泥を避けながら運転していたが、どういうわけか、大きな泥に気づかずに乗り上げてしまった。	医者からバイクを乗らないように指導を受けた。	30m先にある市道を車が時々走っていた。丁度親戚の車が通り、気づいてくれたので自宅まで送ってもらい、救急車を呼んだ。入院4ヶ月。足首が痛み、杖がないと歩けない。	左足下腿部骨折	入

8. 重機

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入院
48	北海道	1	65	26	8	13	月	油圧ショベルのアタッチメントを交換するため、ストッパを外したところ、アタッチメントが正規の向きではなかったために、左足の上に外れ落ちてしまった。	<ul style="list-style-type: none"> ・脱着時にはアタッチメントを接地した状態にすることを忘れてしまっていた。 ・常に安全靴を履いて作業していたため、ヒビ程度の負傷でとどまった。 ・作業前に正しいアタッチメントの交換手順や留意点を確認していなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アタッチメントの向きが正しいことを確認してから交換作業を行うことを徹底した。 ・油圧ショベルのアームに正しい向きをペンキで描いておけば良い、とのアイデアが提案された。 	病院に車で被害者を連れて行った。レントゲン撮影の結果、左足親指にヒビが入っていることが判明、鉄板の添え木を当ててテーピングする処置を受けた。	左足親指骨折（ヒビ）	通
49	広島県	1	35	26	2	15	月	ショベルカーをU字溝を挟んで移動中、斜面に入る時、アームを旋回した時、バランスを崩し、横転。その際、ショベルカーのガードで頭を強打。	アームを谷側に旋回させ、重心が谷側に移動し、横転した。	ある程度の経験はあるとは言え、初めての現場であり、熟練者が指導者として、指導する必要がある。	自力でショベルカーから這い出て、病院へ連絡して、自車にて病院へ行く。	頭部裂傷6針、通院1週間	通
50	新潟県	1	66	24	4	11	水	水が不足する水田のため、雨の日を待ってブルドーザーで代掻き作業を行った。代掻きが終わり、上の水田へ移動しようと、急傾斜の未舗装農道（全長16.9m、道幅2.5m、傾斜12.7～21.8度）を登坂していた。農道は緩やかに左へカーブしており右側が崖になっている。左側にハンドルを切るため、左側のクローラの動力を切った後、スリップが始まり、だんだん右側により、クローラが半分脱輪、あわや転落のヒヤリ・ハットの経験をした。	農道は右側が用水路の崖、左側が上の水田の畦の土手となっている。農道は雨で滑りやすくなっていた。左側のクローラがスリップし始めると踏ん張りが利かず、右側のクローラの駆動に引きずられるような形で旋回せず、そのまま直進してしまふ状態となった。	急傾斜で、カーブしているためブルドーザーの乗入が無理な状況である。翌年から大豆を作付けし、ブルドーザーでの作業をやめた。	ヒヤリ・ハット体験であり怪我はなし。雨が小止みになるのを待ち、最低の速度で前進したところ脱出することができた。脱輪地点は高さ4.5m、傾斜55度の崖であり、転落すれば一命も危ない状況であった。	ヒヤリ・ハット体験	なし

9. 電動具・工具・用具

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入院
51	広島県	1	35	26	3	9 : 3 0	水	畑の陰になる邪魔な杉の木を伐採、倒れた杉が栗の木に引っかかった。そこで栗の木をチェーンソーで切断中、突然、栗の木の幹が裂け、反動で頭部の左から強打、はね飛ばされ、転倒頭部打撲、右脚負傷。	基本的な、伐採の知識無く、伐採。また引っかかった栗の木も、「切った後」どうなるかを考えずにくりを切断。	伐採の仕方、また樹木により切った後の反動など、事後、研修を受けた。また、ヘルメットを着用。	近くの父親が病院へ連絡、自家用車にて病院へ。脚ギブス固定1ヵ月後退院、さらに靭帯再生のため20日間入院	頭部打撲、右腓骨骨折、靭帯断裂	入
52	長野県	1	75	25	11	8	日	桜の木を切っていて、直径4cmほどの幹が自分の方に倒れて来て、枝がチェーンソーのアクセル部分にあった人差し指を直撃し、刃が回転し左手親指の付け根を切った。4日間入院	切った枝が自分の方に倒れてきて、チェーンソーの刃が回転してしまった。	二人で作業し、片方が枝を支える。一人のときは、倒れる方向にカットを入れる。	当日は日曜日だったので簡単に処置をし、翌日切れた腱の手術を行なった。	左母指神経断裂	入
53	福岡県	1	59	25	4	9	?	チェーンソーで雑木を伐採中、傾斜地で足を踏み出し雑木を切った後、惰性で回っていたチェーンが左膝に触れ、切創。	木を切り終わって、エンジンを切ったので、刃の回転も止まったと思い、下げたところ惰性で回転していた刃に膝が当たった。	エンジンを切ったらすぐに回転が止まる構造改善が必要。	自分のタオルで止血。自宅に電話をし、嫁が病院へ搬送してくれた。15針縫合。	左膝切創	通
54	秋田県	1	39	7	6	1 0	一	ビニールハウスの鉄パイプをサンダーで切断しようとして、鉄パイプの破片が目目に飛び込んだ。	焦りもあり、防護メガネをせずに、目の上の高さでサンダーを使用した。	現在は、サンダーを止めて、手動式の鉄パイプカッターを使用している。	医療機関には行かず、目薬をさした。しばらく目が赤かった。この時期から視力が落ちた。	左目損傷	なし
55	長野県	1	70	26	2	1 0	金	大雪で潰れたビニールハウスの鉄パイプを切ろうとして、サンダーが跳ね返り左手親指のつけね部分を切創。	電動サンダーが重く、片手では操作しにくく、パイプに当たったサンダーがキックバックし左手を負傷。	電動ではない、鉄パイプカッターを使用している。	携帯電話で奥さん呼び、30分のところにある病院を受診。縫合。	左手親指つけ根部切創	通
56	秋田県	2	40	22	5	1 1	一	花束の結束機を操作していて、結束するヒモの回転金属棒に左腕が当たり打撲した。	結束機のフットペダルを踏んだとき、金属製の回転アームが回った。	「危険」のマークはあるが、見えにくい。作業前に徹底する。	とくに医療機関にはかからなかった。	左腕打撲	なし
57	長野県	1	52	26	8	1 1	水	自宅横の倉庫内で、キャベツの箱作りをしていた。暑いので工業用の扇風機を使用し、その向きを変えようとしたら、カバーのすき間に指が入り扇風機の羽根に触れ、左手中指を負傷した。	少し力が入ったため、扇風機のカバーの間に指が入ってしまった。工業用の扇風機は自動停止装置が付いていない。	事故後、ネットカバーを装着した。	夜になって痛くなったので、受診。とくに縫うこともなく、指サックが処方された。	左手中指切創	通

10. 摘採機（お茶）

連続NO	地区名	性別	年齢	平成年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入通院
58	福岡県	2	38	20	6	18	木	茶葉の摘採機後の乗用型摘採機に乗り、前進で整枝をし、後退して次ぎの畝に移ろうとして、そのまま、2.1m下の崖下に転落。自分が落ちた後に機械が降ってきて、下敷きとなった。	乗用型摘採機に乗って、4,5年。使い方もご主人から見よう見まねでの教育のみ。 環境的には、方向転換する枕地が少なく、また、園地と崖境には、なんの防護壁もなく、危険な状態。また、バックミラーはあるが、後部のキタの位置確認するには不適切な位置。	摘採機の主要製造メーカーは国内では3社のみ。まだまだ、安全対策が不十分。また、傾斜地での畝の立て方などの工夫で、枕地の確保など、余裕をもった整備が必要。	付近の人、5~6人が駆けつけ、機械を持ち上げ、下敷きの本人を引き出す。ドクターヘリも要請したが、山中であり不可。救急車を手配、山中であったが人数がいてスムーズに誘導。意識不明状態続き、約4カ月後に戻る。	外傷性脳梗塞（小脳一部損傷）、肋骨骨折（肺挫傷）、左手麻痺、同名半盲	入

11. スピードスプレーヤー（SS）

連続NO	地区名	性別	年齢	平成年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入通院
59	栃木県	1	63	26	5	16:20	月	早朝、梨園でスピードスプレーヤー1000型タイプに乗り薬剤散布中、主枝に頭を打ちヘルメット型防除マスクを着用していたが衝撃で頭からヘルメット型防除マスクが脱落、頸椎を損傷した。	通常は頭が主枝に接触しないよう、その直近で回避動作をしていたが、通常と違う動作をしてしまった。	作業中はSSの運転席側と主幹距離が近接していたことから、余裕を持った距離を確保するよう作業方法を変えることが必要	レントゲン撮影の結果、精密検査を受けるよう促され転院。頭と首を固定するハードコルセット装着	頸椎亜脱臼	通

12. マニユアスプレッダー

連続NO	地区名	性別	年齢	平成年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入通院
60	北海道	1	65	25	5	14	金	マニユアスプレッダの点検作業中、機械を駆動した状態でグリスアップを行っていた。回転しているギヤに右人差し指に着けたグリスを塗ろうとしたところ、2つのギヤの間に指が巻き込まれた。	・集中力が欠いており、危険部に対する警戒心が緩んでしまった。 ・その日に限って指でやってしまった。 ・安全な点検作業方法が徹底されていなかった。	点検整備の際は、必ず、機械が止まった状態で行うよう徹底することとした。	自分の運転で病院へ向かう。第一関節から先の骨が粉碎されており、その骨片が2つ残っていて、3~4ヶ月間痛みがあった。	右手人差し指第一関節切断	入

II. 用具・手具・工具

1. 脚立

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
61	北海道	1	46	25	9	10	月	ブルーンの収穫中、例年よりも樹高を高めにして作っていたため、木製脚立の天板上に右足を乗せ、左足は脚立の最上段の棧に乗せ、前屈みの姿勢で収穫作業を行っていたところ、バランスを崩し脚立から滑るように落下、途中脚立の棧に右肘と右足を強く打ち付けた。	・脚立の天板上で作業を行っていた（天板上での作業が禁じられてる事を知らなかった） ・樹高の管理がなされていなかった。	・平成25年に地区の農家が集まって労働基準監督署の安全研修を受講。 ・樹高を抑える管理を心がける。	自分の運転で病院へ行った。アキレス腱断裂で、アキレス腱接合の手術を受け入院。	右アキレス腱断裂	入
62	北海道	1	77	26	5	16	日	7尺脚立の天板上に乗りブルーンの摘花作業中、突然意識を失い地面に落下。作業は朝8時過ぎから夕方6時頃までの長時間に亘り、事故は作業終了2時間前に起きた。	・脚立の天板上に乗って作業していた。（天板上での作業が禁じられてる事を知らなかった） ・樹高の管理がなされていなかった。	・平成25年に地区の農家が集まって労働基準監督署の安全研修を受講。 ・樹高を抑える管理。 ・被害者は低い脚立を使用	家族が救急車を呼ぶ。病院でCTとレントゲン撮影を受ける。意識を失った原因は不明。	右肋骨3本骨折	入院
63	秋田県	1	59	25	12	11	土	堆肥舎のスレート製の屋根が傷み、堆肥の上に雨漏りがするので修復しようとして脚立の天板上に乗り作業中、転落した。	雪が降り地面が不安定なところに脚立を立て、天板上に乗って作業した。	踏み台幅の広い脚立を用意し、足下を安定に保つ。	しばらく動けなかったが、我慢した。医療機関にはかからなかった。	臀部打撲	なし
64	秋田県	2	72	23	6	16	一	梅の実をもごうとリンゴ畑から傾斜になっている斜面に沿って脚立を置き、そこを階段代わりにして登ろうとしたときバランスを崩し、転落した。	斜度45度の斜面に脚立を寝かせておき、それを階段代わりに使った。	少し遠いが歩いて登れる道があった。急がば回れ。	当日は我慢したが、痛いので翌日受診。骨折と診断され1ヶ月入院。	腰椎圧迫骨折	入
65	長野県	1	71	26	7	16	土	自宅庭の松の翠摘みをしようとして脚立の5段目に上ったとき、片方の脚にあてがった石が外れ、脚立が右側に倒れ、150cmの高さから平らな石の上に落下し右肘を強打した。解放骨折。2週間入院。	脚立の脚に高さ調整のためにあてがった石が外れた。	脚立の脚の高さを自在に調整できるものもある。	車で30分の病院を娘の車で行き受診。複雑骨折で手術。	右尺骨肘頭解放骨折	入
66	長野県	2	70	26	8	5	月	7段の三脚の4段目に乗り、りんごの摘果を行おうと上った瞬間、足が滑り仰向けに落下し、地面に背中を強打した。	脚立の踏み段が朝露で滑って転落した。	踏み段を布で拭いておけば良かった。	3日間ほど我慢したが痛いので受診。湿布薬が処方された。	背部打撲	通

1. 脚立

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
67	新潟 県	1	66	26	10	1 8	土	育苗ハウスの中で、農機具に直接日光が当たらないように、日光遮断用の寒冷紗を貼ろうとして三脚に乗っていた。三脚の下から4段目の脚置き場に乗り、背伸びをしてハウスの鉄骨に紐をかけた下に引っ張ったときに、三脚が右に倒れ、事故者は左側に落下した。落下したときは、横倒しとなり肩と肋骨、腰を強く打った。	三脚の脚は軟らかい土の上で、上から力をかけると、若干沈む状況にあった。右足を足置き場の右端に置き、右手で紐を引っ張るときに右足に体重がかかり、三脚の右脚が沈み込んで、右に倒れてしまった。左手は紐をつかんでいたため、鉄骨に捕まることが出来ず、体は左側に落ちてしまった。	三脚を使うときは、足場の確認や、横倒しになり易いかを確認してから使うようにする。	事故後、立つことが出来なかったため、携帯電話で家族に連絡をとり、救急車の手配を頼んだ。救急車は事故後30分ほどで来てくれ、中央病院に担ぎ込まれた。当日は股関節の骨折状況を確認し、応急手当となった。股関節の手術は翌々日の月曜日に行った。40日間入院した。	右股関節骨折	入

2. はしご

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
68	栃木 県	1	61	26	8	8	日	乾燥剤の貯留タンク移動工事中、貯留タンクに立てかけたハシゴ上で作業中ハシゴがズレ、バランスを崩し高さ2.4mから後ろ向きに落下した	貯留タンクは鉄骨コンパネ張り、ハシゴは鉄骨製で滑りやすい材質同士でハシゴを固定する場所が無い状態で使用	脚立の使用。高所作業時は安全带・ヘルメットの着用を実施	自立歩行が出来たので自宅に戻り奥様の運転で病院に行き、診察の結果緊急入院	背中を打ち一時呼吸困難、第1~4腰椎横突起骨折、左第9~11肋骨骨折、右肩甲骨骨折	入

2. はしご

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
69	長野県	1	81	26	6	1 1	水	自宅近くの倉庫の屋根の点検が終了したので、2連梯子を畳もうとヒモを緩め自分の方に倒そうとしたら、間違えて梯子が伸びて反対側に倒れ、梯子の1段目の踏み段が左足を直撃し切傷した。	2連梯子を畳むとき、引っ張るひもを間違えた。	梯子が伸びる方向と縮む方向がはっきり分かるようにヒモに色で区別しておく。	自車で近くの医院を受診。4針縫合。	左足切創	通
70	兵庫県	1	45	15	4	9	土	納屋の天井部分のはめ殺しの板をずらし、二階の育苗箱を降ろそうとした。はめ殺しの板をずらす際に、乾燥機の細いはしごを靱タンク（鉄板製）に立てかけ。板を左にずらそうとして、はしごは右に倒れ、そのままコンクリート土間に左大腿部から転落、強打。	天井板が、はめ殺しで力のいる構造で力がある構造。また、はしごは「昇り降り」するための道具であり、この上での作業は、本来「禁」。	はめ殺しではなく、可動式の天井板に改良する。また、できれば階段の設置を。	朝一に、今日の作業の準備と思い一人で作業して、転落。約5分後に母親が朝食の片付けを終え、納屋で倒れている本人発見。救急車にて病院へ搬送。そのまま38日間入院。	左骨盤骨折	入
71	兵庫県	1	29	21	8	1 4 : 3 0	月	古い倉庫の2.5mの高さの棚から、新しい乾燥施設に200Vの配線、ダクトを移動しようと、乾燥機用の2.5mのはしごを立てかけ、電線をたぐり寄せようとして、はしごが左に傾き、そのままコンクリート床に墜落。左手で体を支え、腕を強打。	固定されたはしごではなく、かつ乾燥機用の滑り易いはしごであった。また、立てかけたところも、鉄製の棚で滑り易かった。	はしごはあくまで昇降用であり、極力物をもっての移動はしない工夫が必要。例えば、棚まであがり、そこから、物をつるす等して、降ろす等。	事故直後は痛みがなく、作業を2～30分続けたが、そのうち左腕が腫れてきた。自車にて受診。左腕の骨折にて、ギブスにて固定。しばらくして、右手のみで作業をしていて腱鞘炎を併発。	左前腕骨折	通

3. 鎌

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
72	長野県	1	29	26	2	1 5	木	りんご園でフラン病の樹皮を削り取っているとき、誤って削り取り用具の刃で左上腕末端部を受傷した。	天気が悪く、もう終わりにしようときが緩んだとき、ナイフを持つ手が滑った。	両方にある刃を片方だけにするナイフの改善。	通りがかった叔父が救急車を呼んだ。動脈が切れていた。	左橈骨動脈断裂	入
73	長野県	1	79	26	8	1 2	土	山側の畑の周辺にある網の柵周りの除草作業をしているとき、落としてしまった鎌の上に乗れ、左足を負傷した。	落としてしまった鎌に気づかず刃を踏んでしまった。	落とした鎌を見つけやすいように、リボンを付ける。あるいは柄の色を赤にする。	足を手ぬぐいで縛り、軽トラックで自宅に戻り、近くの病院を受診。6針縫った。	左足下肢切創	通

4. 一輪車

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
74	秋田県	2	55	22	5	1 1	一	花の苗を専用の運搬車（一輪車）で運んでいて、ビニールハウスの入口付近にあった水撒き用ホースを巻き取る筒を避けようとして、傾いた一輪車を立て直そうとしたとき左膝がぎくつとなった。	コンテナカーで運搬中、ハウス入り口になったホース巻き取り筒のぶつかりそうになり、避けようと反動を切ったとき、バランスを崩し、左足に負担がかかった。	荷物をコンテナカーに積む段階からバランスを保つように配慮する。	整骨院で電気治療をおこなったが、良ならず、病院を受診。膝に水が溜まっており、抜いてもなかった。半年間正座ができなかった。	左膝捻挫	通

5. 背負い式散布機

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
75	長野県	1	65	25	4	1 3	火	自宅から700mにある水田で、背負い式の散布機を用いて肥料を散布したとき膝を痛めた。突然痛くなったわけではないが、じわじわと痛みが増してきた。半月板損傷	土塊などで足場の悪い水田で20kgの肥料を50袋散布し、腰や足に負担がかかった。	畦にいて散布できる散布器もある。共同購入なども考えたい。	足を痛めて、1年後に受診。5日間入院	右足半月板損傷	入

6. 工具

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
76	秋田県	1	30	25	10	9	一	サラダ油缶の金属の蓋を開けようとしたら、うまく開かず金属の蓋が半分で切れてしまったため、手袋を脱ぎプライヤーで引っ張ったところ、押さえていた左手親指の付近をざっくりと切ってしまった。	素手で缶の蓋の周辺を押さえていた。外蓋がうまく開かず途中でちぎれてしまった。その両者が重なった。	金属の蓋ではなく、より安全なプラスチック製の蓋もある。改善が必要。	仲間から病院へ行くように言われ、家に帰り家族に病院へ送ってもらった。9針縫合。	左手親指周辺挫滅創	通
77	長野県	1	66	26	4	1 0	火	大雪でつぶれたパイプハウスの修理中、ハーケン用ハンマーで上向きにパイプを叩いていて、右肘を捻挫した。	上向きの不自然な姿勢でハンマーを振っていた。	姿勢を安全に保つために脚立の高さなども工夫が必要であった。	1ヶ月以上経ってから整骨院を受診。1週間電気治療をしてほぼ完治した。	右肘捻挫	通

Ⅲ. 特になし

1. 歩行中の事故

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
78	長野県	1	63	26	6	5	土	滑りやすいベジタブーツを履いて軽トラックに乗り、水田の水管理にでかけ、13度傾斜のある水田畦畔で滑って左手をつき捻挫した。	滑りやすいベジタブーツを履いたまま、水田の水管理に出かけた。	作業に応じて靴は履き替える必要がある。畦畔天板の水平を保つ。	しばらく放置した。4ヶ月後に受診。バネ指が判明。手術。	左手母指捻挫	通
79	新潟県	1	78	26	11	7	土	水田の排水口を点検中、水田の畦を歩いているとき、右足が滑り左側の土手に落ち、転んでしまった。土手は5mほどの高さがあり、上から1.5mほどのところで止まった。そのとき、右手に持っていた草刈カマの刃が土手に引っかかり、その上に右手が乗ったため、右手の中指と人差し指を切ってしまった。	排水口の点検には、草刈カマは必要ないが、ちょっとしたところに木や草があったときに刈るため、いつもカマを持って歩いていた。畦は霜で濡れていて滑りやすい状況にあった。	カマの刃にカバーをつけて持ち運びする。	止血してトラックで帰宅した。家で傷薬をぬり、車で13kmほど離れた診療所へ行ったが傷が深かったため、更に25kmほど離れた市の医療機関へ行き、治療を受けた。中指の第1関節の腱を半分程度切っており接合するとともに6針縫い、人差し指は4針縫った。	右手中指、人差し指の切創	通
80	新潟県	1	47	26	6	1 7	火	乗用式水田溝切機(バイク式)を使って溝立て作業を行っていた。圃場の溝立てが終わり、畦を歩いて農道に出ようとしたとき、用水路のU字管に落ち、転倒して肩を強く打った。	畦が若干濡れていて、水田長靴で靴底がぬれていたので、U字管を踏み外したとき踏んばれなかった。	畦を歩くときは滑ったり、踏み外したりしないように注意して歩く。	痛みで右肩が上がらなかつたが、水田溝切機をトラックに乗せて帰った。翌日になっても肩の痛みが引かず、治療を受けた。	右肩腱の打撲	通
81	北海道	1	85	25	2	9	月	プルーンの剪定作業を行うため、ノコギリとハサミを腰ベルトに挿して、果樹園に向かう途中、除雪した雪が圧雪状態になっている地点で滑り、転倒して手首付近を骨折した(積雪40~50cm)除雪した雪の表面は夜間に凍結するため、ツルツルの状態であった。	・高齢者であった ・滑り止めのある靴を履いていなかった。 ・通り道を除雪していなかった。 ・滑り対策を検討していなかった。	その後、被害者には冬季に行う剪定作業は控えてもらっているとのこと。高齢者に限らず、転倒の恐れがあるため、通り道を除雪するか、滑り止め付きの靴の着用も必要	自宅に戻り、被害者の息子が病院へ連れて行った。後遺症はない。	左尺骨骨折	通

1. 歩行中の事故

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
82	新潟県	2	68	26	6	8	木	補植用苗を抜き取って捨てる作業と水田の周りの草取り作業を行っていた。長靴や作業服に泥がついていたため、用水路で長靴や手袋を洗って次の水田に入ろうとして、用水路に両足をいれ長靴を洗っていたとき、U字管の底に付いていた水垢や水草で足が滑り転倒しそうになった。この時、土手に左手をつけて体を支えようとして、左手の親指がU字管の淵に当たってしまった。	U字管の底には藻が生えていて長靴が滑りやすくなっていた。用水路は傾斜2.7度の勾配があり、水深約20cmとかなりの水量があった。長靴は水田長靴で底のざざざが浅いことから滑りやすかった。	用水路は滑りやすいので気をつける。	親指がグラグラしており、痛みも強かったことから、骨折をしたと思った。携帯電話で娘を呼び、整形外科医で治療を受けた。ギブスで4週間固定。事故後、握るとき少し痛み、握力が落ちた。	左手親指の骨折	通

2. 高所転落

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
83	新潟県	1	82	26	12	11	金	土蔵の屋根の雪が1.5mほど積っていたため、雪を下ろしていた。雪下ろしがほぼ終わり、はしごを横に動かし足を前に動かしたとき雪が滑って、雪と一緒に下に落ちてしまった。土蔵の下は2mほどの積雪と屋根から落とした雪で3mほどの山になっており、その上にたたきつけられるように横になって落ちた。落ちた場所は屋根から2mほど下にあり、下ろしていた雪が硬くその上に腰を強く打ってしまった。	屋根の雪が自然に落下するよう、屋根にはナゼ止めがついていなかった。屋根の勾配が17度と急勾配であり、滑りやすい状況にあった。屋根には命綱を固定するものがないので、命綱はつけていない。	雪が積っても屋根に上らない。	落ちた後、作業を妻に任せ家で休んでいた。夜になり床に就くと腰が痛くなり、寝返りを打てなくなった。翌朝、家族に医者に行くように勧められたが、1週間前にも屋根から飛び降りたとき足を痛め、シップ薬程度の治療で済んだので、今回も同程度と考え医者にはいかなかった。	腰打撲	なし

2. 高所転落

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入院
84	新潟県	1	68	26	5	9	水	フォークリフトに積んであった水稻育苗箱を作業所の2階に収納しようとしていた。2階の高さは1階の床より3.6mで、2階に物を上げるのに便利のように縦2.7m、横1.7mの吹き抜けとなっている。その吹き抜けを利用してフォークリフトで積んである育苗箱を持ち上げ、2階で育苗箱を取ろうとしていた。そのときのフォークリフトの持ち上げ方が足りず、2階からしゃがみこんで取ろうとしバランスを崩して1階に落ちてしまった。	育苗箱を2階に上げる作業は危険であるので通常2人で行うようにしていた。しかし、今回は事故者が1人で作業で行い、しかもフォークリフトの上げ方が足りなかったため、しゃがみこんで育苗箱を取ろうとした。	ヘルメットの着用。落下防止柵の設置。	事故直後、事業主が帰ると事故者はフォークリフトに寄りかかって立っており、「立ちくらみしただけ」と言ったが、様子がおかしいので休ませ、救急車を手配。救急車が来るまでにだんだん意識がなくなり、病院に行く途中救急車の中で嘔吐した。事故後意識不明が続く。	脳挫傷、脳出血	入
85	北海道	1	72	25	5	18	水	苗ポットが入ったコンテナを2tダンプトラックの荷台に積んでいたところ、雨で濡れた荷台で足を滑らせ、転落した。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者であった。 ・滑りやすい荷台に乗って作業していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重たいものは持たない ・機械への乗り降りに気を付ける。 	翌日妻の運転で病院に行き診察。管を入れて肺を膨らます手術を受ける。	肋骨3本骨折、肺気胸	入

IV. 大規模畑作

1. 掘取機

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
86	北海道	2	64	24	10	1 1	水	ニンジンハーベスタを停車した状態で、各部を駆動したまま、ニンジンの茎葉部を挟んで引き上げるVベルトの周辺に堆積した茎葉部等を手で取り除いていたところ、Vベルトとプーリの間に右親指が巻き込まれた。	・機械を動かしたまま、危険部に手を近づけてしまった。 ・安全な掃除方法が検討されていない。	機械を動かしながらでないと挟雑物が取れない部分はどうしてもあるため、棒等を使って取り除くように改めた。	爪の下の内出血が酷かったため、爪を剥がす施術を受ける。骨には異常はなかった。	右親指の圧迫（爪の剥離）	通
87	北海道	1	43	25	9	1 4	金	茎葉カッターの上部に溜まった茎葉を取り除こうとし、機械が動いた状態で作業手袋を着けた手を差し込み茎葉カッターに右手親指の先端が接触し、切創を負う。	・農作業未経験者 ・危険性を十分認識せず、機械が動いた状態で茎葉カッターに手を入れてしまった。	必ず機械を止めてから行うようルールを定め、作業者全員に周知し、行動を徹底する。	診療所で病院を紹介され手術を受ける。4～5日後診察、患部が腐敗していたため、腐敗部を切除し1週間入院、退院後、再発しさらに2日間入院。	右手親指折損	入
88	北海道	2	44	25	7	5	金	小雨が降る中の収穫作業中、ニンジンハーベスタの後部の作業台に乗って、ニンジンが入ったミニコンテナを、トラックに乗せ替える為、ミニコンテナを横にずらそうとしたところ、濡れた作業台で足を滑らし畑に仰向けに転落した。	・本来、乗るべきではない作業台に乗って作業を行ってしまった。 ・濡れると滑りやすいウレタン製の長靴を履いていた。 ・補助作業車が機械の後ろについて歩くという作業方法に対して、意図しない方法でユーザーが使用する可能性を設計者が予測できていなかった。	作業台の周囲に滑り止めの鉄板を取り付けたが、ミニコンテナの滑りやすさを優先して、作業台表面の対策はされていない。	夕方首の痛みが生じてきたため、自分で整形外科に行き診察を受けた。	首の捻挫	通
89	北海道	1	67	24	7	1 0	月	収穫したニンジンが入ったフレコンバックをトラクターに装着したフォーク付きフロントローダで吊ってトレーラーに乗せる作業中、フレコンバックの吊り手を右手で持ってフォークを持ち上げるようにトラクターのオペレータに指示したところ、右手を離し損ねて右手中指第一関節から先を吊り手とフォークの間に挟まれた。	・右手が危険な位置にあるのに気付かず、自分で吊り上げの指示を出してしまった。 ・吊り手を持つ位置について、挟まれるのを予測していなかった。	・危険部位から手を離してから、吊り上げの合図を出すルールを徹底する。 ・人手確保が困難な農作業では難しいが、本来であれば作業者とは別に、全てを目視確認できる作業支持者を置くことが望ましい。	近くの診療所に行ったが対応できず、病院を紹介され、そこで手袋の中に残っていた組織を縫合する手術を受けた。	右手中指 第一関節の裂傷	通

1. 掘取機

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入院
90	北海道	1	54	24	10	14	火	茎葉処理ローラを駆動するチェーンに小石や土塊が積もったため、手で取り除こうとした。その都度、機械を止められなかったため機械が動いた状態で手を入れてしまい、左手の人差し指がローラに巻き込まれた。	<ul style="list-style-type: none"> ・機械を止めずに危険部に手を入れてしまった。 ・危険部に手を入れないで夾雑物を除去する対策が検討されていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・茎葉処理ローラ端部に詰まった夾雑物は、長さ30cm程度の竹棒で取り除く。 ・新しい機種は茎葉処理部が機体前方に移動し夾雑物が詰まりにくい。 	5日後に病院（化膿止め処方）痛みが退かず、2～3日後再度受診、骨折と診断。	左人差し指骨折、爪の割れ	通
91	北海道	2	64	24	8	11	水	ポテトハーベスタの後面にあるロータリコンベアに詰まった夾雑物を取り除いていたところ、機体上部で掃除していた作業者が運転手に頼み機械を駆動したため、被害者の右手前腕部がロータリコンベアと内壁兼ガイドの隙間に巻き込まれた。	<ul style="list-style-type: none"> ・専門ではなかった。 ・他の作業者の死角で作業することを事前に伝えていなかった。 ・機体が大きく死角が多い 	機械が動く時は合図を出し、誰も近づかないように徹底を図った。また、機械に近づく時にはトラクタの運転者に必ず了承を得てからにように徹底。	病院で縫合手術（5針程度）を受けた。筋肉、骨は以上なし。	右前腕部裂傷	通
92	北海道	1	32	25	9	15	月	ポテトハーベスタで収穫中、拾い上げコンベアに草などの夾雑物が詰まっていたため、掘り取り部の詰まりを取り除こうと、左手を伸ばしたところ、駆動軸に衣服が巻き込まれ、首が強く絞まったため衣服を引きちぎって脱出した。	<ul style="list-style-type: none"> ・トラクタから降りるとき、エンジンやPTOクラッチを切らなかった。 ・作業に適した服装を励行していなかった。 ・駆動部のカバーが破損していた。 	作業中に詰まりが生じても必ずエンジンを止めてから取り除くよう徹底している。	町の病院で擦りむけた首や胸を消毒、救急車で大きな病院に転院し、入院。	頸椎捻挫、顔面打撲、首、胸部擦過傷	入
93	北海道	2	50	24	9	9	木	ダイコンハーベスタで加工用ダイコンを収穫。コンベアの上に整列させながら、茎葉の残りの部分を丸鋸状のカッターで切り落とす作業中、ダイコンがまとまって上がってきたため、カッターへの供給が忙しくなりダイコンに手が押されて左手の中指の先端がカッターに触れて切傷を負った。	<ul style="list-style-type: none"> ・まとまってダイコンが来ると慌ててしまう ・作業者の特性等に適した作業分担の選定が不十分だった。 ・危険部の防護が不十分な機械を使用していた。 	作業面積を3倍に拡大し、今後は事故が起きないよう、ダイコンが詰まってきたら、ハーベスタの速度を落とす、あるいは停止する等、慎重に作業する。	夫が車で病院に連れて行った。	左中指切創	通

2. 収穫機他

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
94	沖縄 県	1	44	26	1	9	金	サトウキビハーベスターで、刈り取りに入った畑の最初の部分でバックしたとき、補助員が轢かれ、死亡。	バックしたとき、警告音がなっているにも関わらず、作業補助員が機械に近づき轢かれた。	□をなくすためのモニターなどの設置。補助作業員への教育とコミュニケーションの徹底。	事故後すぐに携帯で救急車を要請し、10分ぐらいで病院へ搬送された。本島への搬送も考え、ドクターヘリも待機されたが、死亡が確認された。	骨盤等 圧迫に て死亡	死 亡
95	北海道	1	28	23	8	1 7	火	オニオンピッカの拾い上げコンベアに茎葉が引っかかっていたため、これを取り除こうと左手を入れたところ、共同作業員が、被害者の行動に気付かず、機械を動かしたため、左腕が掻き上げ部に巻き込まれた。	・前もって共同作業員に知らせずに可動部に近づいてしまった。 ・機械を動かす前に、被害者にその旨を伝え、安全を確認していなかった。	点検や掃除をする時は必ず機械を止め、共同作業員と意思疎通を図ってから行うように徹底した。	車で近くの病院へ向かい、レントゲン撮影と痛み止めの処置を受け、そこから救急車で大きな病院へ転院した。経過観察のため2日間入院。	左上腕 部圧迫	入
96	北海道	1	33	25	8	9	金	パートタイマーとして雇用されて3日目の被害者が、長ネギ根切り機で作業中、スイッチを切らずに切断部に詰まった土を取り除こうと手を入れた途端、根切り刃が作動して、右手中指先端を切創した。	・電源スイッチを切らずに危険部に手を入れてしまった。 ・根切り機の使い方は、十分に説明したはずだったが、遵守されなかった。	パートタイマーにケガをさせると、翌シーズンの雇用に支障が生じるため、根切り機の使用を中止し、ハサミで根を切るよう作業方法を改めた。	自分で近くの病院に行き、診察を受けた。通院は初診のみ。	右手中 指 第 一関節 切創	通

V. 畜産関係

1. 牧畜関係の機械

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
97	秋田県	1	85	22	5	1 1	一	トラクターに集草機をつけて運転していて、ペットボトルを落としてしまったので、拾おうと降りたとき、足が滑って倒れたところに、集草機の回転でトラクターが前進し後輪の下敷きになった。	トラクターから降りるときに全てのPTOを止めなかったためアタッチメントの反動で動いてしまった。	PTOの停止。ペットボトルなどは作業をやめて休憩時に別の場所で飲む。	踏まれた後、フラフラと息子のところに歩いてきた。親戚の人に病院へ送ってもらった。2週間入院。	肋骨骨折	入
98	北海道	1	31	25	6	1 4	木	ロールベアラによる収穫作業中、草がロールベアラの上部に絡みついたため、トラクタのエンジンを切り、リヤチャンバを開けた状態で、草を取り除いていたところ、リヤチャンバが除々に閉まって右大腿の部分が挟まれた。	<ul style="list-style-type: none"> リヤチャンバを開放した際に、油圧ストッパをかけなかった。 可動部に足を突っ込んで作業していた。 機体上部に草が絡まった。 	当事者が多忙で時間がなく、聞き取ることができなかった。	共同作業衣者が119番通報、レスキュー隊が工具でリヤチャンバをこじ開け、救出。外傷はなし。	右大腿部圧迫	入
99	北海道	1	50	25	10	1 1	金	コーンハーベスタのフィードローラに倒状したトウモロコシが詰まったため、エンジンを止め、PTOのトランスミッションにハンドルを取り付け、手でけん引桿の右側に立ってハンドルを回したところ、ハンドルとけん引桿の連結部との間に左手の薬指を挟んだ。	<ul style="list-style-type: none"> 当該部位に指を挟む危険を予測していなかった。 台風で倒状したトウモロコシが多かったため、コーンハーベスタが度々詰まった。 	コーンハーベスタの詰まりを除去する時は、必ずけん引桿の左側に立ち、指を挟まない握り方でハンドルを操作するよう徹底している。	自分の運転で病院に向かい診察を受けた。レントゲン撮影の結果、骨の先端たがかけており、4針の縫合施術を受ける。	左手薬指の裂傷、骨先端の骨折	通
100	秋田県	1	64	24	10	1 1	日	牛舎内で使用する大型の扇風機のプロペラが壊れたので、修理をして直ったと思い手を入れたらプロペラに左手中指があたり、複雑骨折をした。	大型扇風機のカバーが壊れ、プロペラに直接手が当たった。	カバーの設置。取り付け位置の検討も必要。	当たったとき、中指の白い骨が見えた。水洗いし自車で病院を受診。翌日に手術。2週間入院	左手中指複雑骨折	入

2. 牛

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入院
101	岩手県	2	69	26	6	11:30	金	パドックに放していた親子の牛を牛舎に入れる際に、子牛の次に親牛が入ってきたところ、牛舎入口付近に立っていた被害者にぶつかった。牛舎入口（コンクリート床）に段差があったため、つまずいて転び、牛舎内のゴムマットに左手をついたところ、左橈骨・尺骨を骨折した。	骨粗鬆症と言われている。牛舎の入り口に段差があった。	パドックと牛舎の間の段差をなくす必要があるが、未だそのままにしている。	ペットボトルに水を入れて患部の左腕を冷やしながら夫の運転で病院に行き、1ヶ月半ギプス装着。今も左手に力が入らず、重いものが持てない。	左 橈骨・尺骨遠位端骨折、左 橈骨体部不全骨折、第11肋不全骨折	通
102	秋田県	1	65	25	7	11	火	牛の競りを終え、その場から牛を移動させようと手綱をひいていたところ、前の牛との間が空き、慌てて突進し始めたため、止めようとして手綱と鉄の棒の間に親指を挟まれ切断した。	450kgもある牛の暴走を、手綱を鉄の杭に絡めるだけで止めようとした。	暴走を止める他の方法、鉄の杭などで通路を止めるなどの工夫が必要。	指がちぎられるように飛び、腕の腱が包帯を巻いたように見えたという。救急車を呼んで搬送。縫合には3ヶ月の入院が必要と言われ、諦めた。	左手親指切断	入
103	鹿児島	2	36	26	6	15	水	生後2ヶ月の仔牛を別の檻に移す作業中、仔牛が暴れたため、檻と仔牛の間に左手親指が挟まり負傷。	檻と通路には段差が10cmあり、その段差を怖がった牛を後ろから両手で通路へ促すように押した。	段差をなくす、あるいは傾斜を付けて牛の恐怖感を払拭する構造的な工夫が必要。	受傷後、ご主人の車で病院へ連れて行ってもらった。左手にヒビが入っているということで固定。その後、肩こりがひどくなった。	左手拇指剥離骨折	通
104	鹿児島	1	42	24	8	11	月	牛の競りを翌日に控え、競りに出す300kgの牛の洗浄をおこなっていたとき、体に触れられた牛が驚き、飛び上がり、そのまま被害者の上に横倒しになり、下敷きになった。	牛は体に触れられることを嫌うということを知っていたが、明日の競りのことで焦りがあった。	牛とのコミュニケーションも大切。今回の事故で農災保険の重要性を痛感した。	受傷後すぐに救急車を呼んで病因へ搬送。すぐに手術。100日間入院。もう半月入院が必要と言われたが、牛が心配で退院。	左足脛骨・腓骨複雑骨折	入
105	北海道	1	36	26	3	10	火	乾乳牛を移動させるため、頭にモクシを着け、牛床から引きだそうとしたところ、嫌がって頭を振った拍子に被害者が振り回され、転倒し、右腰を強打した。	・牛を怖がらせ、暴れさせてしまった。 ・頭を無理矢理引っ張ったために、嫌がった。	牛を怖がらせず、興味を惹かせる工夫をするなどの誘導方法を行う必要がある。	翌日、自分で車を運転し病院へ行く。腰部の痛み、足のしびれが残る。	右腰部打撲、急性ヘルニア	通

2. 牛

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入院
106	北海道	1	55	25	10	5	水	パーラーでの搾乳の終了間際、待機場にいた最後の一头を、パーラーに入るよう促したところ、牛が嫌がり急に方向転換した拍子に転倒し、牛の足が被害者を足払いした形となり、被害者がコンクリート床面に転倒した。	・待機場に1人で入ってしまった。 ・普段からパーラーに入ることを嫌がる牛だった。	1人では待機場に入らないことにした。	車で病院。骨折が確認されたため、即日入院し手術を受ける。一旦退院したが、骨折部分に取り付けた金属プレートが破断したため再度入院し手術を受ける。	左足首上部の骨折	入
107	北海道	1	46	26	6	13	木	搾乳を終えた初産牛の横に立って、カウトレーナの高さを調節していたところ、初産牛が突然右後脚で被害者の左大腿（膝より上の部分）を蹴った。搾乳時は蹴り防止の胴締めを装着していたが、事故時は胴締めを外した後だった。	・いつもせかせかと作業していた。 ・牛の行動を予測できなかった。	牛が突発的な行動を起こす危険が感じられるときは、予め胴締めをかけることにした。	打撲なら数日経てば痛みが退くと思い、そのままにしていたが、膝関節の痛みが強くなり一週間後に病院で診察を受けた。	左大腿部打撲、内出血	通
108	秋田県	2	57	19	11	16	木	牛舎の端にいた妊娠牛の頭が金属製の枠に入り込んでしまい角が邪魔になり抜けなかったため、ロープを外し引いたところ、隣にいた牛の場所に倒れ、驚いたその牛に全身を踏まれた。	妊娠牛の頭を枠から抜くことに集中していて、隣の牛のことを注意していなかった。	牛の角を早めに切っておく必要があった。	シャワーを浴び、おじいちゃんに病院へ送ってもらった。2ヶ月入院	右腕捻挫、肋骨骨折、靭帯内側断裂	入
109	秋田県	2	43	25	11	18	一	対頭式の牛舎内で、搾乳中に少し暴れん坊の牛を前に引いたとき、牛の顔が私の鼻の部分にぶつかり、鼻血が噴出した。	牛の頭をロープで少し前に引いたとき、牛の頭が自分の顔面に当たった。	近づき過ぎないようにロープで固定する方法の検討が必要。	母親に病院へ連れて行ってもらった。骨折と診断。顔面紫色で消えるのに半年かかった。	顔面打撲、鼻骨骨折	通
110	鹿児島	1	63	26	7	16	金	牛舎で搾乳のために牛の腰部にキーパー（牛の蹴りを防ぐための器具）をはめていたところ、牛が暴れ出し牛と柵の間に右手を挟まれ小指の先端部を負傷した。	少し気の荒い牛の搾乳をしようとして、いつもの流れでキーパーをはめようとした。焦りもあった。	牛とのコミュニケーションが必要だった。	血がびゅっと飛んだ。慌てて包帯で止血。近くにいた奥さんの車で病院へ搬送。	右手小指切創	通